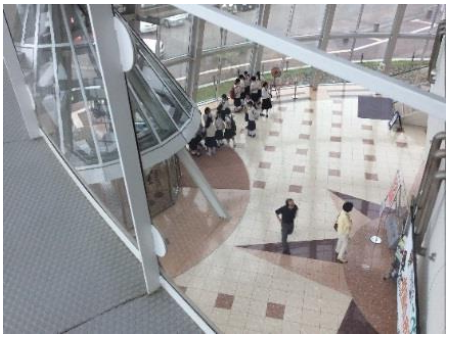
山根一仁さん/上野通明さん応援レポート
「ベートーヴェンとナポレオン」～パリへの旅行計画～
2015年8月22日（土）
久慈市文化会館（アンバーホール）大ホール(岩手県久慈市）

幻の『ナポレオン御前演奏会＠パリ』を再現

岩手県久慈市。三陸復興国立公園の北部に位置し、国内最北端の海で漁をする「北限の海女」の町である。最近では、NHK朝ドラマ「あまちゃん」の主要舞台としても名高い。また、世界有数かつ国内最大の「琥珀」の採掘産地としても知られる地である。

その久慈市の市制施行10周年を記念した『久慈・ベートーヴェン交響曲 連戦演奏会』は、ベートーヴェンの交響曲をとりあげ、シリーズ化したコンサートである。
2013年３月の第１弾では「デビューコンサート再現」企画として、交響曲第１番、ピアノ協奏曲第１番（ほか）が演奏された。
シリーズ第２弾の今回は、ベートーヴェンと、ベートーヴェンが深く尊敬していたというナポレオンの二人に焦点を当て、ベートーヴェンが企画しながら幻に終わったといわれるパリでの演奏会、『ナポレオン御前演奏』の再現というかたちで届けられる。

会場は久慈市文化会館 (アンバーホール)の大ホール。
斬新な外観デザインに驚きながら中に入ると、三角錐の内部は広い吹き抜け空間。
展望台を備える個性的な建物は、黒川紀章建築事務所設計とのこと。久慈広域圏の総合的な文化サービスを担うシンボリックな建物である。



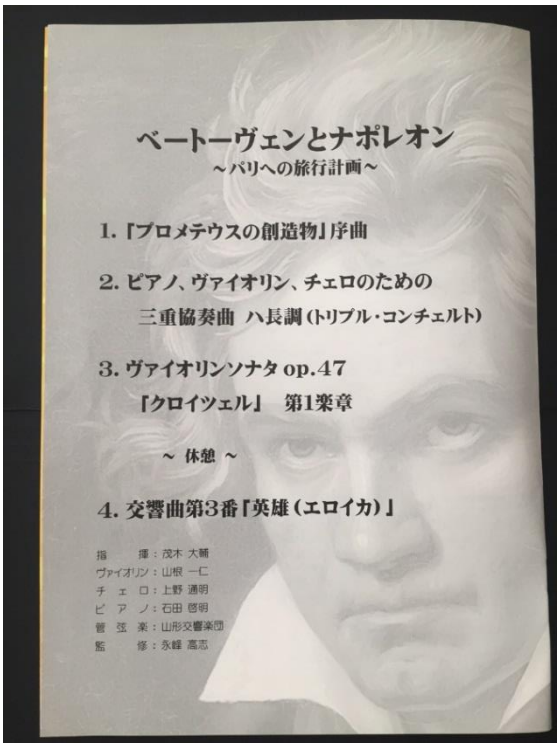
会場である久慈市文化会館
全景（左下）と内部吹き抜け空間（上）

難曲「トリプル・コンチェルト」で聴衆を魅了

「これから世界的に名を馳せていく新進気鋭のソリスト」と紹介された山根さんと上野さん、茂木大輔氏指揮、管弦楽・山形交響楽団による「プロメテウスの創造物」序曲に続いて舞台に登場。オーケストラをバックに、難曲といわれる「ピアノ、ヴァイオリン、チェロのための三重協奏曲 ハ長調（トリプル・コンチェルト）」を見事に奏できった（ピアノは石田啓明さん）。

「トリプル・コンチェルト」として知られるこの曲、独奏ヴァイオリン・独奏チェロ・独奏ピアノと三重の独奏楽器に、オーケストラを組み合わせるという、非常に珍しい構成。
作曲された当時、チェロを伴った協奏曲はほとんどなく、ベートーヴェンの独創的な発想によって生まれた曲とも考えられるとのこと。また、この作品はベートーヴェンが残した、チェロを独奏楽器とした唯一の協奏曲でもある。

コンサート前に行われた指揮者の茂木氏による「プレトーク」においても、『前代未聞の構成かつ難解』と、紹介されたこの曲、ソリストを3人揃えるという贅沢な構成のため、ほとんど演奏されることがないのだそう。
『ライブで聴くことができるなんて幸運ですよ』とのお言葉に姿勢を正して耳を傾ける。



≪プログラム≫
「プロメテウスの創造物」序曲
ピアノ、ヴァイオリン、チェロのための三重協奏曲
　ハ長調　（トリプル・コンチェルト）
ヴァイオリン・ソナタop.47「クロイツェル」第1楽章
交響曲第3番「英雄（エロイカ）」

続いて山根さんにより「ヴァイオリンとピアノのための『クロイツェル・ソナタ」第1楽章」がつややかに弾きあげられ、客席からは割れんばかりの拍手（ピアノは石田啓明さん）。
（写真はリハーサル時のもの）

ラストは山形交響楽団による交響曲第3番「英雄（エロイカ）」。
トランペットやホルンには、18-19世紀の古楽器が用いられ、観客は「『音楽のフランス革命』とも言われるベートーヴェンの才気みなぎる音楽（茂木氏解説を引用）」を、心ゆくまで味わった。

山形交響楽団ホームページより転載

難曲を弾きあげた充実の笑顔

会場のアンバーホールは、クラシック音楽の生演奏、機械を使わない生の音の魅力を最大限に引き出すホールとして設計された大ホール。

指揮者の茂木氏は以下のようにコメント;
「・・・アンバーホールの音響や舞台装置、照明などは、芸術的雰囲気の漂うエントランスと相まって、まさに理想的なものと感じます。
さすがに黒川紀章建築で、客席のせり上がり方などが奥行とともに絶妙に計算されていて、すべての座席から音も姿もしっかり堪能できるのではないでしょうか。
ぼくは数千人も入るホールで、PA（＝注：アンプやスピーカーなど音響機材）のないクラシック音楽を演奏することには、常々無力感を感じておりまして、アンバーホールくらいのサイズのホールで、圧倒的にオーケストラが鳴り渡るほうを好んでいます」

また、山根さん、上野さんも「とても響きのよいホールで驚きました！」とのコメントを寄せていた。
（アンバーホールFacebookページより引用）

アンバーホールは客席数1,164席。
写真は終演後の客席。

バスに乗り込む若きソリスト3人。いい笑顔です。

終演後、バスに乗り込むお二人を追いかけ、本日の演奏について一言もらう;

山根さん「・・・やはりトリプル・コンチェルトです。めったに弾く機会のないこの曲を演奏することができ、とても満足しています！」

上野さん「トリプル・コンチェルトは本当に難しい曲なんです。練習も大変でした。でも、今日はとても上手く弾けました。よかったです！」

充実感あふれるお二人の笑顔。

山根さん、上野さん、素敵な演奏でした。
また聴かせてください！

≪出演≫
指揮：茂木大輔
ソリスト：
　山根一仁（ヴァイオリン）
　上野通明（チェロ）
　石田啓明（ピアノ）
管弦楽：山形交響楽団

≪監修≫
永峰高志

【コンサート・フライヤー（表）】

【コンサート・フライヤー（裏）】

ベートーヴェン、三十四歳。
交響曲第三番「英雄」を中心に
茂木大輔の解説とスライド上映
新進気鋭のソリスト
古典作品の演奏に定評のある山形交響楽団で
幻の"ナポレオン御前演奏会@パリ"を再現します。
あなたもベートーヴェンの世界に
浸ってみませんか。

監修　永峰 高志
（アンバーホール芸術監督・館長）

茂木 大輔 【指揮】

撮影／長谷谷義隆

ミュンヘン国立音楽大学大学院修了（オーボエ専攻）バンベルク交響楽団、バイエルン放送交響楽団などで首席オーボエ奏者に客演するほか、ヘルムート・リリンクのもとバッハ演奏を集中的に学び、録音、世界各地への演奏旅行などに参加。86年からシュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団の第1オーボエ奏者を経て、1990年からNHK交響楽団首席オーボエ奏者。ソロ、協奏曲、音楽祭への出演など多方面で活躍するほか、独自の企画による多数のCDをリリースして注目を集める。楽器、音楽史、作品、作曲家の人生などを取りあげる様々な解説コンサートを得意とし、現在までにそうした活動を通じて、仙台フィル、山形交響楽団、アンサンブル金沢、東京フィル、名古屋フィル、兵庫PAC、広島交響楽団、九州交響楽団など多数の団体を指揮している。ニノ宮知子「のだめカンタービレ」原作に取材協力、ドラマ、アニメ、映画では「クラシック監修」と俳優の演奏演技指導などを担当した。自ら企画・指揮する「生で聴くのだめカンタービレの音楽会」を全国展開。

2009年より、4年間にわたって東京音楽大学および大学院にて指揮実技、音楽理論、スコアリーディングなどを学び、2013年優秀な成績をもって大学院を卒業。指揮を故：岩城宏之、および外山雄三、広上淳一、田代俊文、三河正典の各氏に師事。執筆でも知られ、「オーケストラ楽器別人間学（新潮文庫）」など多数の著書がある。最新刊はドイツ語単語からの連想エッセイ「アイネクライネなわが回想」（幻戯書房）

石田 啓明【ピアノ】

撮影／井村重人

1994年東京生まれ。2013年東京音楽コンクール1位、2014年日本音楽コンクール1位ほか、受賞多数。これまでに、梅田俊明、円光寺雅彦、大友直人、小林研一郎、松尾葉子、渡邊一正、チョン・ミンの各氏指揮による、東響、東京フィル、日本フィル、セントラル愛知響と共演。現在、桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマ・コースに特待生として在籍し、ピアノを岡本美智子氏に師事。強靭な音の核と柔軟性に富んだ表現力を併せ持ち、音楽ジャーナリストの梅津時比古氏より「彼はこの若さで、表現の底に、芸術にとって必要な、静謐なものを見えている」と評されるなど、次代を担うピアニストとして注目を集める期待の逸材。

山根 一仁【ヴァイオリン】

©K.MIURA

1995年札幌生まれ。2010年中学校3年在学中に第79回日本音楽コンクール第1位並びに聴衆賞、全部門を通して最も印象的な演奏に贈られる増沢賞等5つの副賞受賞。同コンクールで中学生の1位は26年ぶり。各地でのリサイタルの他、秋山和慶、井上道義、梅田俊明、大友直人、高関健、広上淳一、山田和樹等とN響、都響、東響、新日本フィルをはじめ国内のオーケストラと共演を重ねる。ベルリン・フィル五重奏団、マキシム＝ヴェンゲーロフ氏との共演、トッパンホール「エスポワールシリーズNo.11」に最年少で抜擢される等注目を集めている。NHK-Eテレ「ららら♪クラシック」NHK-BS「クラシック倶楽部」テレビ朝日「題名のない音楽会」NHK-FM「名曲リサイタル」「リサイタル・ノヴァ」等に出演。第60回横浜文化芸術奨励賞最年少受賞。岩崎時子音楽振興財団「第2回 Foundation for Youth」受賞。第43回江副記念財団奨学生。桐朋学園大学ソリストディプロマコース全額免除特待生。これまでに故富岡萬、水野佐知香、原田幸一郎の各氏に師事。

上野 通明【チェロ】

©Masayuki Ikeda

2009年13歳で第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール日本人初の優勝。第6回ルーマニア国際音楽コンクール第1位、併せてルーマニア大使館賞、ルーマニアラジオ文化局賞受賞。2014年第21回ヨハネス・ブラームス国際コンクールチェロ部門第1位。新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、ロシア交響楽団など国内外の数々のオーケストラと共演。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHKBS「クラシック倶楽部」等に出演。岩谷時子音楽文化振興財団「第1回 Foundation for youth」受賞。2014年宗次エンジェル基金、ロームミュージックファンデーション、江副記念財団奨学生。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コース全額免除特待生。毛利伯郎氏に師事。

山形交響楽団【管弦楽】

1971年山形県出身の指揮者村川千秋によって準備オーケストラを組織し、翌1972年東北地方では初めてのプロ・オーケストラとして誕生した。1991年7月、アメリカ・コロラド州で開催された「コロラド・ミュージック・フェスティバル」に参加、初の海外公演を行った。また、2008年には、アカデミー賞映画「おくりびと」に出演し話題となった。現在、音楽監督飯森範親、創立名誉指揮者村川千秋、名誉指揮者黒岩英臣、正指揮者大井剛史の指揮者陣に首席客演指揮者として鈴木秀美、ミハウ・ドヴォジンスキが加わり、また、コンポーザー・イン・レジデンスに西村朗を擁し、定期演奏会、特別演奏会、依頼演奏会、スクールコンサートやテレビ・ラジオ出演など多彩な演奏活動を展開する。

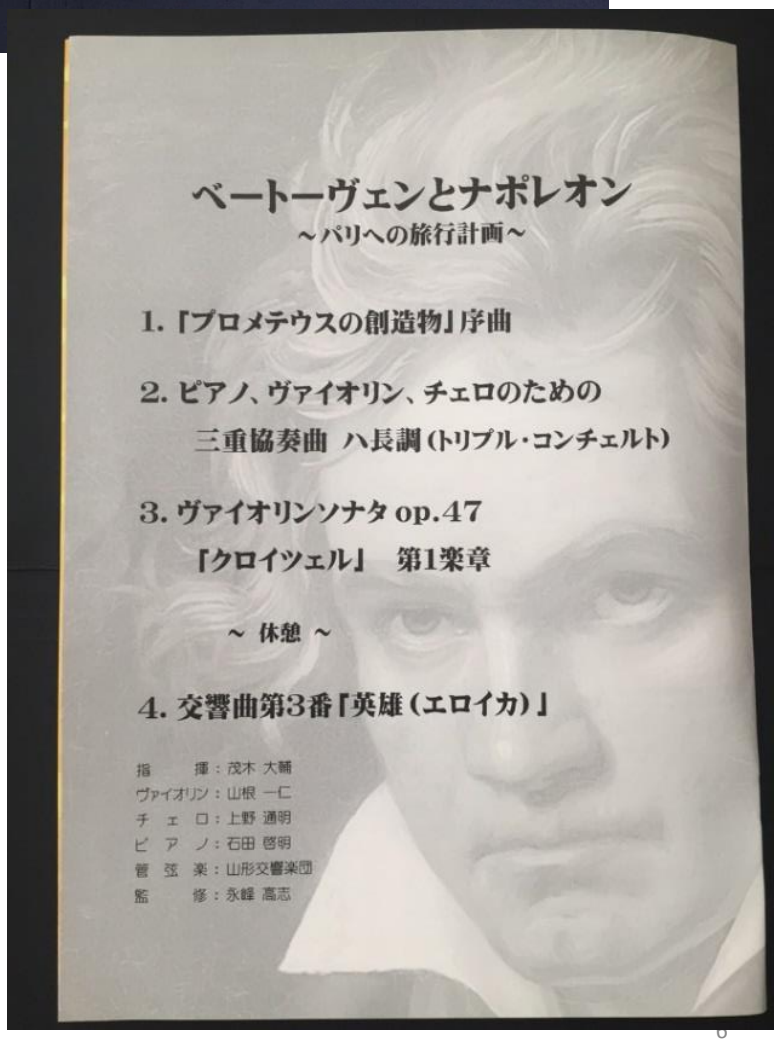
©Kazuhiko Suzuki

AMBER HALL

お問合せ／久慈市文化会館（アンバーホール）0194－52－2700

岩手県久慈市川崎町17－1　♪久慈駅から徒歩7分　♪毎週火曜休館

【当日配布プログラム（表紙・裏表紙/表紙裏プログラム）】



ベートーヴェンとナポレオン
～パリへの旅行計画～

1. 「プロメテウスの創造物」序曲

2. ピアノ、ヴァイオリン、チェロのための
三重協奏曲　ハ長調（トリプル・コンチェルト）

3. ヴァイオリンソナタ op.47
「クロイツェル」　第1楽章

～ 休憩 ～

4. 交響曲第3番「英雄（エロイカ）」

指　　揮：茂木 大輔
ヴァイオリン：山根 一仁
チ ェ ロ：上野 通明
ピ ア ノ：石田 啓明
管 弦 楽：山形交響楽団
監　　修：永峰 高志

【当日配布プログラム（1～3ページ目）】

～ごあいさつ～

茂木 大輔「ベートーヴェン：幻のナポレオン御前演奏会プログラム」

ようこそいらっしゃいました！

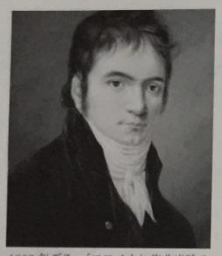
前回、このシリーズの初回では、ベートーヴェン（1770-1827）が1800年にウィーンで自作交響曲第１番を初演した巨大なデビュー演奏会の、長いながーいプログラムを再現いたしました。このとき、客席にいたイタリアのバレエマスター、サルヴァトーレ・ヴィガーノは、ベートーヴェンに「プロメテウスの創造物」というバレエ音楽を依頼。そのフィナーレは、数回の転用を経て「交響曲第３番『英雄（エロイカ）』」の第４楽章になりました。

サルヴァトーレ・ヴィガーノ

今回、シリーズの第２回では、このバレエ音楽の序曲から始めて、ベートーヴェンが強く尊敬しており、パリに行ってその御前で演奏しようと計画していた、ナポレオンのためのプログラムを再現してお届けいたします。

メインは、その「エロイカ」交響曲、そしてピアノ、ヴァイオリン、チェロの３人を独奏者とする前代未聞の「三重協奏曲ハ長調」、さらに、有名なヴァイオリンとピアノのための「クロイツェル・ソナタ」（本日は第１楽章）です。

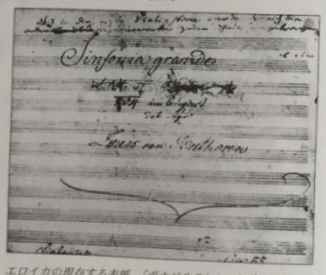
この計画の全貌を、膨大な歴史資料の分析と、超一流の歴史学者ならではの洞察から再構築したのは、日本を代表する音楽学（音楽史）の権威である大崎滋生先生であり、このパンフレットには、大崎先生自らによるその解説を頂戴しておりますので、是非じっくりとお読みになって下さい。難しいことがありましたらお気軽に茂木までご質問下さい。ただし、ぼくにも解らないこともあるのですが・・・（笑）



1803年ごろ、「エロイカ」作曲当時のベートーヴェン

1804年ごろのナポレオン

結局、ベートーヴェンによる「ナポレオン御前演奏会」は、というより、そもそもパリに行くことが結局実現しませんでしたが、それはヨーロッパ全体が戦争状態となって政情が不安定になったためでした。よく知られた逸話、つまり、ナポレオンがフランス皇帝に即位したことを聞いたベートーヴェンが激怒して楽譜の表紙を引きちぎった、というのはウソであったことが判明しています。



エロイカの現存する表紙。「ボナパルテ」（＝ナポレオン）の文字が削り取られ、穴が開いている。

少なくとも、作曲中にはナポレオンへの強い尊敬はベートーヴェンの心中にあり、完成した交響曲はナポレオンそのもの、と言える姿を今に伝えているのです。

そして、この「交響曲第３番『エロイカ』」と「三重協奏曲」は、これらの曲を実質的に「お買上げ」になったボヘミアの貴族、ロブコヴィッツ侯爵の邸宅で、同時に非公開初演（1804初夏）が行われたあと、半年間は侯爵が「独占演奏権」を持って賓客を招いては演奏していたのです。

ロブコヴィッツ侯爵

今日は、ナポレオンの気分になってこれを聞かれるもよし、また、独占演奏権を買い上げたロブコヴィッツ侯爵の賓客となって初演を聴くつもりでもよし、いずれにしてもゴージャス極まりない、また「音楽のフランス革命」とも言われるベートーヴェンの才気が全てにみなぎった音楽を、ごゆっくりとお楽しみになって下さい。

氷峰館長のお計らいで、同じく若く、才気に満ちた３人の独奏者と、18－19世紀の音楽の演奏に、当時の楽器を用いるなど特別な深い経験と教養を持つ山形交響楽団の組み合わせが実現しました。指揮者、解説者として、ぼくもこの演奏をとても楽しみにしています。

茂木（もぎ） 大輔（だいすけ）

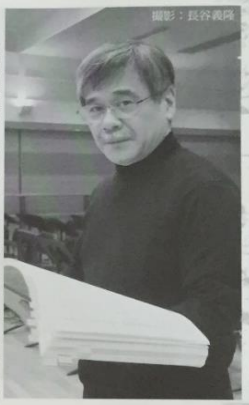
「久慈・ベートーヴェン交響曲 連戦演奏会」シリーズ

vol.1：平成25年３月３日（日）「デビューコンサート再現」
交響曲第１番、ピアノ協奏曲第１番ほか

vol.2：平成27年８月22日（土）「パリへの旅行計画」
交響曲第３番「英雄」、三重協奏曲、クロイツェルほか

vol.3：乞うご期待♪

茂木 大輔 Daisuke MOGI（指揮・解説）


撮影：長谷義隆

ミュンヘン国立音楽大学大学院修了（オーボエ専攻）バンベルク交響楽団、バイエルン放送交響楽団などで首席オーボエ奏者に客演するほか、ヘルムート・リリンクのもとバッハ演奏を集中的に学び、録音、世界各地への演奏旅行などに参加。86年からシュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団の第1オーボエ奏者を経て、1990年からNHK交響楽団首席オーボエ奏者。ソロ、協奏曲、音楽祭への出演など多方面で活躍するほか、独自の企画による多数のCDをリリースして注目を集める。

1996年から指揮活動に入り、オーケストラの楽器や、バッハの教会音楽、ベートーヴェンのシンフォニーなどの解説コンサートで全国的に活躍。現在までに仙台フィル、山形交響楽団、アンサンブル金沢、東京フィル、名古屋フィル、兵庫PAC、広島交響楽団、九州交響楽団など多数の団体を指揮している。

山下洋輔・筒井康隆をはじめジャズ、文学とのコラボレーション、作曲、即興、「N響アワー」「ららら・クラシック」「DJクラシック」「たけしの誰でもピカソ」「NMBとまなぶくん」などテレビ・ラジオへの出演、NHKカルチャーを始めとするレクチャー、音楽史研究、楽譜研究など活動は硬軟含めて極めて多岐に渡っている。

二ノ宮知子「のだめカンタービレ」原作に取材協力、ドラマ、アニメ、映画では「クラシック監修」と俳優の演奏演技指導などを担当した。自ら企画・指揮する「生で聴くのだめカンタービレの音楽会」を全国展開、一流オーケストラとソリストを起用して本格的演奏で高い評価を得ている。

2009年より、4年間にわたって東京音楽大学および大学院にて指揮実技、音楽理論、スコアリーディングなどを学び、2013年優秀な成績をもって大学院を卒業。

指揮を故：岩城宏之、および外山雄三、広上淳一、田代俊文、三河正典の各氏に師事。執筆でも知られ、「オーケストラ楽器別人間学（新潮文庫）」など多数の著書がある。最新刊はドイツ語単語からの連想エッセイ「アイネクライネなわが回想」（幻戯書房）

山根 一仁 Kazuhito YAMANE（ヴァイオリン）

© K.MIURA

1995年生まれ。2010年、中学校3年在学中に第79回日本音楽コンクール第1位、レウカディア賞、黒柳賞、鷹見賞、岩谷賞（聴衆賞）、並びに全部門を通して最も印象的な演奏・作品に贈られる増沢賞も受賞。同コンクールで中学生の1位は26年ぶり。以後、秋山和慶、井上道義、梅田俊明、大友直人、高関健、広上淳一、山田和樹等各氏とN響、都響、東響、新日本フィルをはじめ国内のオーケストラと共演を重ねる。ベルリン・フィル五重奏団、マキシム・ヴェンゲーロフ氏との共演、トッパンホール「エスポワールシリーズNo.11」に最年少で抜擢される等、注目を集めている。

テレビ・ラジオへの出演もNHK—Eテレ「ららら♪クラシック」、テレビ朝日「題名のない音楽会」等多数。

第6回横浜文化賞文化芸術奨励賞を最年少受賞。2012年岩谷時子音楽文化振興財団「第2回Foundation for youth」受賞。2012・2013年度ローム・ミュージックファンデーション奨学生。第43回江副記念財団奨学生。

現在、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コース特待生。

これまでに故富岡萬、水野佐知香、原田幸一郎の各氏に師事。2015年秋よりクリストフ・ポッペン氏のもとミュンヘン音楽大学スペシャルコースに留学が決まっている。

上野 通明 Michiaki UENO（チェロ）

© Masaaki Ueda

パラグアイに生まれる。5歳よりチェロを始め幼少期をスペイン、バルセロナで過ごし、数々のコンクールで優勝または入賞。2009年第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクールにて13歳で日本人初の優勝。翌2010年第6回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽器部門最年少第1位、ルーマニア大使館賞、ルーマニアラジオ文化局賞を併せて受賞。翌年ルーマニア各地にて5回の連続演奏会で演奏する。2014年オーストリア・ベルチャッハで開催された第21回ヨハネス・ブラームス国際コンクールチェロ部門第1位。

いしかわミュージックアカデミー（IMA音楽賞受賞）、Great Mountain Music Festival（全額免除奨学生）、カザルス国際音楽祭、クロンベルクアカデミー等に参加し研鑽を積む。これまでに新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、ロシア交響楽団等国内外のオーケストラと多数共演。韓国KBSテレビ「クラシックオデッセイ」、テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK-BS「クラシック倶楽部」、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」等に出演。

2014年度京ボイエローエンジェル基金、2014・2015年度ローム・ミュージックファンデーション、第44回江副記念財団奨学生、日本ヴァイオリン特別楽器貸与対象者、岩谷時子音楽文化振興財団「第1回Foundation for youth」、「第6回岩谷時子賞奨励賞」受賞。現在、桐朋学園大学リソスト・ディプロマ・コース全額免除特待生。馬場省一、イニアキ・エチェバル、現在毛利伯郎氏に師事。

石田 啓明 Hiroaki ISHIDA（ピアノ）

撮影：井村重人

1994年東京生まれ。6歳よりピアノを始める。

2009年第63回全日本学生音楽コンクール全国大会ピアノ部門中学校の部1位及び横浜市民賞（聴衆賞）。2011年第9回東京音楽コンクールピアノ部門1位及び聴衆賞。2014年第83回日本音楽コンクールピアノ部門1位及び野村賞、井口賞、河合賞。

2012年第1回メンデルスゾーン国際音楽アカデミー（ドイツ・ライプツィヒ）に、メンデルスゾーンスカラシップ奨学生として参加。これまでに、梅田俊明、円光寺雅彦、大友直人、小林研一郎、松尾葉子、渡邊一正、チョン・ミンの各氏指揮による、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団と共演。リサイタルやコンサートは、東京文化会館小ホール、カフィ表参道パウゼ、ヤマハ銀座店サロン等に数いて多数出演。

2012・2013年度公益財団法人ローム・ミュージックファンデーション奨学生。

2013年桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）を首席で卒業。現在、桐朋学園大学音楽学部リソスト・ディプロマ・コースに特待生として在籍し、ピアノを岡本美智子氏に師事。

強靭な音の核と柔軟性に富んだ表現力を併せ持ち、音楽ジャーナリストの梅津時比古氏より「彼はこの若さで、表現の底に、芸術にとって必要な、静謐なものを見えている」と評されるなど、次代を担うピアニストとして注目を集める期待の逸材。

© Kazuhiko Suzuki

山形交響楽団 Yamagata Symphony Orchestra

～"食と温泉の国"のオーケストラ～

飯森範親を音楽監督に迎え、現在定期演奏会・特別演奏会をはじめ年間約150回の演奏会を行っている。1971年山形県出身の指揮者村川千秋によって準備オーケストラを組織し、翌1972年東北地方では初めてのプロ・オーケストラとして誕生した。同年8月運営母体として山形交響楽協会を設立し、9月には、第1回定期演奏会を開催、1974年、山形交響楽協会が公益の社団法人として認可され、演奏活動範囲は、東北6県・新潟県まで拡大した。その後、山形県芸術文化会議賞、斎藤茂吉文化賞、第28回昭和53年度河北文化賞を相次いで受賞。2001年6月には30年間に及ぶ学校対象の演奏会等の音楽教育普及活動が評価され、サントリー地域文化賞を、また2007年11月には地域文化功労者文部科学大臣表彰を受けるなど、名実共に東北地方のみならず日本の音楽文化を代表するオーケストラとしての地位を確立した。1987年サントリーホールにて初の東京公演を成功させ、その後、浜離宮朝日ホール、すみだ・リフォニーホールでの「地方都市オーケストラ・フェスティバル」への参加、2003年より毎年6月に東京オペラシティにて「さくらんぼコンサート」を開催するなど、これまでに数多くの東京公演を成功させている。1991年7月、アメリカ・コロラド州で開催された「コロラド・ミュージック・フェスティバル」に参加、初の海外公演を行った。また、2008年には、アカデミー賞映画「おくりびと」に出演し話題となった。

2006年、オーケストラの自主レーベルとしては日本初となるCDレーベル「YSO live」を立ち上げ、各方面から高い評価を得ている。

2013年4月より、音楽監督飯森範親、創立名誉指揮者村川千秋、名誉指揮者黒岩英臣、正指揮者大井剛史の指揮者陣に首席客演指揮者として鈴木秀美、ミハウ・ドヴォジンスキが加わり、また、コンポーザー・イン・レジデンスに西村朗を擁し、定期演奏会、特別演奏会、依頼演奏会、スクールコンサートやテレビ・ラジオ出演など多彩な演奏活動を展開する。